7号　令和６年４月１９日

＜学校教育目標＞　自ら伸びる　ともに伸びる

校長便り（職員編）

呉市立市阿賀小学校
安宗　誠

「ごんぎつね」の続き話が書きたい！

「ごんぎつね」の終末を扱うときの**めあて**を・・・，

「ごん，お前だったのか。いつもくりをくれたのは。」のすぐ後，もし，ごんが話ができる状態だったら，どんな会話になっていたでしょうか？

と，仮に設定すると・・・，

まず，このようなめあてなら，**達成目標**が設定できたと言えるでしょう。

次に，兵十とごんの会話の想像ですが，国語ですから，根拠に基づいて（叙述に即して）会話を想像します。根拠に基づいて想像できなければ，それは想像ではなく「妄想」になってしまいます。つまり，国語ではなくなってしまうわけです。この点は注意しなければなりません。

このようにして進めた結果，授業の**まとめ**はどうなるでしょうか？

この授業では，子ども達が想像してノートに書いた兵十とごんのやりとりはそれぞれちがいますよね。しかし，大切なことは，根拠に基づいているかどうか，その１点です。そうすると，まとめは・・・，

（○ページ○行目の「・・・・・・」）から（・・・）ということが読み取れることから，このような会話文を想像しました。

となるのではないでしょうか？

場合によっては，このように，画一的ではないまとめもありということでしょう。

以上のことを受けて，子ども達に期待する**発展的振り返り**は？

「さらに深めたい！」「さらに広げたい！」ことがその子なりに浮かんでいるのであれば，それでよいのですが，教師が子ども達に期待する発展的振り返りの例をもって授業に臨むことが大切です。

本時の流れからすると，**「ごんぎつね」の続き話が書きたい！**が出てくれば最高ですね！この発展的振り返りが週末の宿題（**「主体学習」**のテーマ）となるわけです。